



ばんどう まさこ

坂東 昌子 氏

(本名 政井 昌子)

生年月日 昭和 8 年 8 月 1 日生

住 所 田辺市中屋敷町

昭和 8 年 (1933 年) 8 月 1 日、西牟婁郡田辺町 (現田辺市今福町) で生まれる。

幼少から日本舞踊を習い始め、戦後、坂東三恵鶴師 [第 7 回 (昭和 51 年) 田辺市文化賞受賞者] に師事。以来、本格的な舞踊会にも数多く出演。大学時代には田辺の地方劇団「カモメ座」の公演にも参加。

昭和 29 年 (1954 年) 3 月、武庫川女子短期大学文学部を卒業後、東京テレビタレントセンターで狂言・デンマーク体操・日本舞踊・新劇などの実技訓練や言語学・声楽などの理論教育を学び、その間、東京新聞主催の「舞踊コンクール」に、3 年連続して入賞を果たすなど着実にその力を伸ばしていく。

昭和 35 年 (1960 年) に帰郷し、本格的に日本舞踊の修行に専念。昭和 38 年 (1963 年)、八代目坂東流家元坂東三津五郎の許しを得て坂東流名取となる。(名披露目は「鷺娘」を踊る。)

昭和 46 年 (1971 年) 「昌門会」発足、主宰。

昭和 49 年 (1974 年)、和歌山県民文化会館で開催の「第一回和歌山県名流舞踊会」に師匠である坂東三恵鶴とともに「橋弁慶」に出演。その後、同舞踊会に回を追って出演し「傀儡師」「お夏狂乱」「三ツ面子守」などを発表。

昌門会発足以来、門弟との発表会「昌門会おさらい会」を毎年開催。昭和 59 年 (1984 年)、紀南文化会館開館を機に、同発表会の会場を同館に移し、古典、民謡、創作などを披露。特に群舞の振付けを得意とする。平成 12 年 (2000 年) 今日まで回を重ねること 17 回 (当初からは 30 回)、市内外から訪れる延べ約 2 万 5 千人を数える鑑賞者に大きな感銘を与える。

また、当地方の伝統芸能関係者と連携のもと、田辺伝統芸能協会、田辺市文化協会の設立に尽力し、平成 12 年 (2000 年) 現在、田辺市文化協会の一員として、毎年開催の文協フェスティバルに参加するなど積極的な活動を続けている。

一方、昭和 56 年 (1981 年) には、田辺大通りの開通を記念して作られた「田辺お

第 31 回 (平成 12 年)

どり」の振付けを担当し、市民への普及指導にも尽力しているほか、昭和 59 年（1984 年）、紀南文化会館竣工のこけら落としでは「三番叟」をつとめ、平成 9 年（1997 年）、新庄総合公園野外音楽堂竣工のこけら落としでは、門弟を指導し「壽式三番叟」を披露、さらに平成 11 年（1999 年）の南紀熊野体験博では、オペラと日本舞踊をジョイントさせた「われもきよひめ、なれもきよひめ」で「京鹿子娘道成寺」を踊るなど、節目節目の大きな舞台で素晴らしい技と伝承の数々を披露している。

このように、長年にわたり坂東流日本舞踊の師匠として、流儀の古典を保持しつつ、時代にあった省略や創作など新しい流れをも取り入れながら、精進と研さんに努める一方で、後進の指導、育成にも力を傾け、その中で品格を重んじ、海外へ出かける門弟には必ず日本舞踊を披露するよう指導するなど、坂東流日本舞踊の伝承普及と地域の文化振興に大きな役割を果たしている。

(略 歴)

昭和 29 年（1954 年）3 月 武庫川女子短期大学文学部卒業

(その他)

日本舞踊協会会員
坂東流名取
昌門会主宰者
田辺市文化協会会員